



審判委員会

活動 報告書

インストラクター
トレーニングセンター

2022（後期）

後期日程と内容

各都市協会のご支援のもと、以下の日程にて4回（後期）開催することができました。

PT実技におきましては、諸事情により二度中止となってしまいましたが、その分プランニングする時間へ注力する事が出来ました。

第5回 2022.10.9 於：みきぼう第二球技場

- ◆試合観戦
- ◆プランニングシートの作成/発表

第6回 2022.12.3 於：アスパ五色

- ◆試合観戦
- ◆チュータリング/プレゼン

第7回 2023.3.18 於：大蔵海岸多目的広場

- ◆PT実践と振り返り
- ◆次回のプランニングシート作成

第8回 2023.3.25 於：三木防災公園

- ◆年間活動報告
- ◆試合分析/チュータリング実践

【講師/指導者】吉岡智氏、渡辺直幹氏、梶山勝弘氏、中村正光氏、内橋克博氏

【受講者】川島陽治氏、佃和広氏、塚本恭一氏、中田英男氏、小河良洋氏、神田哲也氏

9:30

講義

「プランニングのポイント」

11:00

試合観戦

県社会人サッカーリーグ2部

(昼食・休憩)

13:00

観戦試合フィードバック

振り返り (チュータリング実践)

14:00

実践

プランニング作成

プランニング発表

15:45

まとめ

第5回 タイムスケジュール

「課題点」をプランニング

第5回目は、実試合（レフェリング）を見て、実際にフィードバック（振り返り）を行い、審判員の課題点を抽出しました。

その課題点に対し、PTにおいて"どんなトレーニングが有効か"を模索、プランニングしていきます。

まずは、「プランニングのポイント」を中村氏から講義を受け、観察力と分析力の大切さ、気づきを促すような練習法と助言の必要性を知る事から1日がスタートしました。

01. 社会人サッカーリーグ2部の試合を全員で観戦し、メモを取りつつ主審の課題点を絞り込み、PTのプランニングへ紐づけていきます。



02. 試合後、審判団に研修室まで来ていただき、チュータリング手法（考えさせる/引き出す/答えに導く）を活用して、振り返りを行いました。これも明瞭且つ的確に伝える技術を磨くトレーニングになっています。



03. 受講者が3人1組となり、各テーマが与えられた物に対して、各組発表し合いました。
「ポジショニング」については、あえて主審の視野を狭くするような動きを取り入れ、エラーを誘発させるようなトレーニングメニューを考えました。



9:00

講義①

アナリシス（映像分析）

10:00

実践

- ・ 試合観戦→分析、課題抽出、改善方法提起
- ・ ディスカッション

（昼食・休憩）

13:00

講義②

チュータリング

発表順とテーマ：

中田氏「オフサイド（ディフレクション）」

塚本氏「警告となるホールディング」

佃氏「クイックスタート」

小河氏「オフサイド（干渉）」

神田氏「アドバンテージ（ロールバック）」

川島氏「タクティカルファウル」

※3級審判員6名に向けてのプレゼン

16:30

まとめ

第6回 タイムスケジュール

年末恒例の研修会との融合

12月初旬、審判委員会恒例の淡路研修会にイントレ班も連携という形で開催させていただきました。

午前中は試合観戦をして、割当てされたレフェリーチームの課題点を抽出し、改善方法をまずは個々に考えます。次に互いの意見を出し、全員でディスカッションしていく中で、指導ポイントを絞り込む為、関連する事象に対して、ポジショニング・判定・マネジメント等の観点をもとに「どこをどう修正してどう伝えれば適切な指導ができるか」について、落としどころを探りながら擦り合わせを行いました。

午後からは午前中に活動していた3級審判員6名を部屋に招き、事前に与えられたテーマ別に全員がプレゼンを行い、率直な意見や感想と全体の評価をしていただきました。



01. 幾度となく繰り返すインスト活動。試合観戦→試合/事象分析→絞り込み→チュータリング手法による審判員との振り返り→レポート作成→競技規則の見返し→自己分析→試合観戦・・・と、審判員と同じように反復していく事で指導者も成長していきます。



02. 与えられたテーマを元に発表する受講者と評価側となった審判員との構図。決して一方通行のプレゼンとならぬよう質疑応答形式を用いて、これまで習得してきた技術を出し切りました。



03. 感想について、面と向かっては言い辛い所もあるため、別部屋に移動し事務局が事情聴取。部屋に戻り、率直な意見・感想・改善点を各発表者に伝える。①興味を持たせたか②有益な情報/内容であったか③理解を深める伝え方への工夫があったか等、厳しい評価と現実を突きつけられた時間となりました。

前日

伊丹西高等学校 グランド
雨天（グラウンド不良）により
実技PTの中止を決定 → 会場変更

《 大蔵海岸多目的広場 談話室 》

11:00

講義①
プランニング発表

【プランニングテーマ】
1班＝オフサイド
2班＝ファウルの見極め
3班＝ポジショニングと動き

12:00

実践
ブラッシュアップ作業

(昼食・休憩)

14:30

講義③
・プランニング再発表
・ディスカッション

16:30

まとめ

第7回 タイムスケジュール

イレギュラー時の対応

実技トレーニングを予定していた第7回。

しかしながらインフルエンザの蔓延、雨天ピッチ不良により、2度続けての中止となりましたが、急遽別会場を予約して、講義のみの研修へと変更して開催しました。

この回では、するはずであったPTのプランをフィールドシート上で表現し、ブラッシュアップを図りました。。



01.

テーマ「オフサイド」を説明する小河氏。旬ネタであるディフレクションをサブテーマとして、プランを説明。予定している事象が適時発生するのか、よりシンプルに出来ないか等、参加者全員で最適プランを模索しました。



02.

「ファウルの見極め」を担当した塚本氏。実践回数を確保する為にシンプルな構造にしていた所、別の受講者から「主審の動きが少ないのではないか」と指摘され、すかさず吉岡講師からアドバイスが飛ぶ。「なるほど、そうすればアレンジが利くなぁ。」と全員が耳を傾けた。



03.

中田氏は「ポジショニング」を担当。ボールは使用せず、デモンストレーターは指定されたルートを走り、ある場所でジャンケンを行う。主審は後追いでスタートし、ジャンケンの勝敗を見に行く、と言ったプランが出された。

開幕前研修会との連携開催

10:15

報告/発表

23年度プラクティカルTR活動報告
・3名から報告/発表

11:40

連絡

23年度の活動に関する注意事項

12:00

講義

【三木市消防本部】指導
心肺蘇生法

(昼食・休憩)

14:00

試合観戦

ガバナーカップ 第一試合

16:00

フィードバック実践

審判員/INS/SV各役に扮して実践

16:30

挨拶

第8回 タイムスケジュール

伝える難しさを伝える

最終回は、三木防災公園にて「開幕前研修」との連携開催となりました。まず初めに内橋部長から挨拶があり、続いてイントレ受講者3名から「プレゼンテーションによるPT活動報告」が行われ、30名以上集まったINSを前に緊張しながら発表。

次に少し場所を移動して、三木市消防本部のご協力・指導のもと、心肺蘇生法を体験・体得しました。

午後からはガバナーカップを観戦し、3人1組（審判/INS/SV各役）に分かれ、振り返り（フィードバック）実践を行い、2022年度イントレの幕を閉じました。



01.

PT研修においてプランと実践後とのギャップに苦悩した日々を吐露。年間通じて体現してきた事で多くの学び、気づきが生まれました。



02.

「もしも」の際に“動ける人”となるよう心肺蘇生法を習いました。周囲への協力と呼び掛け、気道確保、胸骨圧迫の重要性、AEDの使用方法等、マネキンを使用して実際にやってみました。



03.

試合観戦後に3人1組となり、フィードバックトレーニングを実施。主審役も当事者になりきり、考えや判定基準をINSに伝えます。その中で挙がった課題点に対し修正案を一緒に出し合い、次の試合で活かせるよう指導練習の場としました。

仮想振り返り時間の20分を終え、全体発表へと移ります。試合中に起こった事象を各班代表者がホワイトボードへ書き込み説明。全員でディスカッションを行い、共通理解を得ました。



最後に中村講師から細かな解説・指導があり、全カリキュラムが終了しました。

イントレに参加して (振り返り・気づき)

★デモ中に気を付けること

- ・デモの始まりと終わりの区切りを笛を吹くなどして明確にする
- ・審判のDoの確保⇒限られた時間の中でより多く
- ・一回のデモが終わる毎に、審判がどう判断したのか話してもらう事を心がける。ただデモの繰り返しでは、PTの目的が伝わらないし、審判自ら課題に気づく事もない。
- ・デモンストレーターが怪我をすることの無い様、安全に十分留意する。例えば、ファウルの見極めにおいて、ファウルの種類を制限する、腰にタオルを挟んでもらい、それを引き抜いた方がファウルを犯したものとみなす、など
- ・プランの狙い通りの結果が出ない可能性を見据えて、途中でデモンストレーターの配置を変える等、柔軟に対応する準備を整えておく事、など



塚本氏

★プラクティカルトレーニングで学んだ事。重要な事。実体験。

- ・主審が動かない
- ・デモンストレーターが思うように動いてくれない
- ・描いていたファウルが起こらない
- ・何も起こらず終了することが続く
- ・時間が大幅に過ぎてしまう
- ・審判員の為のプラクティカルに全くなっていない
- ・誰もが通る道!! 経験が何より重要です!!

☆ プランニングシートの出来でほぼ決まる

- ・目的は分かりやすく示す。あれもこれも欲張らない。
- ・予想されるエラーを考慮しその要因と過程を考える。
- ・時間配分を考える (Doの確保は、最優先)
- ・デモンストレーターには簡単明確に (開始と終了)
- ・ミスを修正するための知識を身につけ準備しておく

☆ パーソナリティ

- ・アドバイスや意見は素直に受け入れる
- ・頭を柔らかく (固定観念やこだわりは捨てる)
- ・ブラッシュアップでプランを180度変更することも有り
- ・話術を磨く (自分で何を言ってるか分からない)
- ・失敗しても落ち込まない (経験が次への成功)



小河氏

最後に

シンプル＝奥深さ、を知る

振り返ってみると、全8回の内実技TRが出来たのが、3回（姫路・三木・明石）でした。説明もうまくできず、ファウルも生まれず、茫然と立ち尽くした第1回。時間配分は出来たけれど、実践回数も標準以下で、デモンストレーターや審判員に適切な指導が出来なかった第2回。それらを反省し、プランも少しずつ工夫が見られ、何とか実践回数をこなせた3回目…。

後期はプランニングしたけれど、天候不良による中止の影響もあって実技を行う機会に恵まれませんでしたが、その分より深くPTについて考察する事が出来ました。過去に各都市協会でのトレセンやレフェリーキャラバンレガシープログラムでも実際にPTをやってきましたが、それはあくまで元々出来上がっていたプランを拝借した物であり、今回の活動を通じてその事実を深く知る結果となりました。

今、改めてPTを1から作り出す作業の難しさ、思った通りに出来ないもどかしさ、それを指導できない自身への失望を繰り返しながらも段階的に成長曲線を描けていたように思います。単発研修ではなく年間通して複数回本格的な指導が入り、府県協会において「日本初」であった年に参加出来た事を誇りに思います。今後はまた別のステージで伝え、実践する側の立場として、その役割を全うしたいと思っています。



実技の部分では、多少不完全燃焼さが残りましたが、選手への演出指導と審判員への気づき・助言・指導もできるようになったと感じています。これも講師のご指導のお陰です。

最後になりますが、PTに関わった全ての皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。